

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 883 号	氏名	金丸 順策
学位審査委員	主 査 村田 比呂司 副 査 原 宜興 副 査 吉田 教明		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 本研究では、生活大臼歯の亀裂発生に関連する要因について多面的な解析を加えた。研究目的として妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 今回の亀裂歯の分類は、AAE の分類を参考とした。患者の、性別、年齢、残存歯数、主訴、歯種、打診反応、歯髓の生活状態、修復材料と窩洞形態、亀裂の位置・方向、歯周ポケット、X線及びCT診査、マイクロスコープ所見、対合歯の性状、咬合状態をそれぞれ記録した。特に咬合状態は、平衡側の早期接触 Nonworking-side interference (NWI) の検出には中心位から咬頭嵌合位への移動に注目して検査した。このように、対象歯の修復状況、咬合関係など研究目的に対応した検討が加えられており、研究手法は妥当と考える。</p> <p>3. 解析・考察の評価 有髄大臼歯における破折は、上顎に比べ下顎に多かった。これは顎骨の解剖学的な構造との関連が推測される。亀裂は、上顎大臼歯では近心から近心舌側、下顎では遠心から遠心頬側に出やすいことが判明した。NWI の亀裂、破折発生への直接的影響が証明できた。また、咬合と関連した特徴的な現象は、顎頭に一番近い強い力が加わる上顎最後臼歯の遠心にも亀裂が生じやすいことあげられる。初診時の歯冠修復処置と関連して、金属インレー修復歯では亀裂・破折が生じやすいことも明らかとなった。 さらに、亀裂歯への処置として、特に根管治療せず生活歯のまま維持するうえで、予防的な歯冠修復処置（全部被覆冠）も重要である。</p> <p>以上のように本論文は亀裂歯の発生と対応に関して貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。</p>			